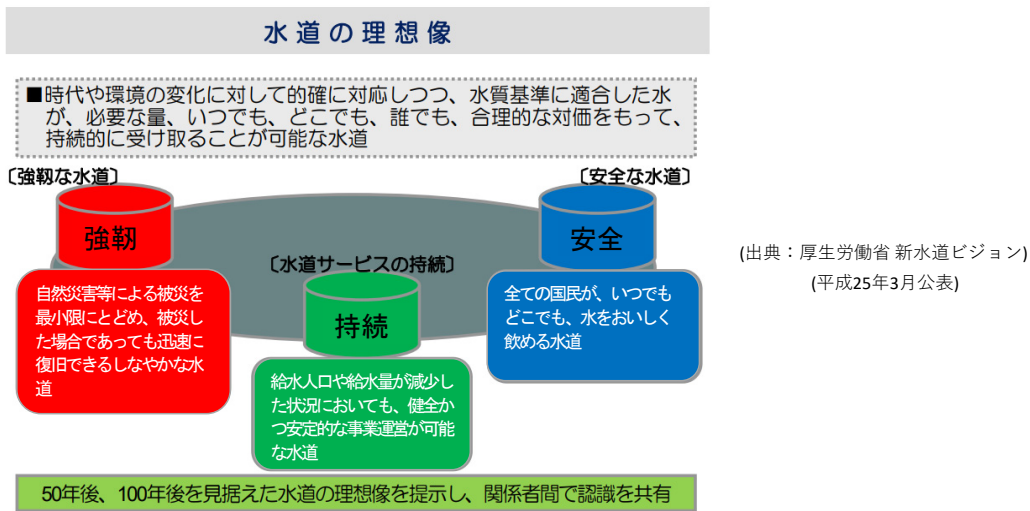


第1章 第3次浜田市水道ビジョンについて

■策定の背景及び位置付け

- ・浜田市では、安全・安心な水道水を将来にわたって安定的に供給していくため、長期的な視点から水道事業の方向性を示す「浜田市水道ビジョン」を策定
- ・第2次浜田市水道ビジョン策定以降、想定以上の人口減少や物価高騰などの影響により水道経営は一段と厳しさを増し、施設等の老朽化、耐震化の遅れ、技術職員不足などが課題
- ・第3次浜田市水道ビジョンは現状と課題を整理し、将来像や基本方針を明確にし、計画的・効率的に事業を推進するための基本計画として策定
- ・計画期間は、目標年度を令和17年度とした10年間
- ・「安全」「強靱」「持続」の3つの観点から、将来にわたり持続可能な水道事業の実現に向けた指針としている



第2章 水道事業の現状

■水需要の見通し

- ・給水人口は減少傾向を示しており、令和12年度には40,990人になると推計されており、有収水量も減少傾向
- ・有収水量の減少傾向に応じ、料金収入の減少を見込む

■施設・管路施設の状況

- ・施設については相生配水池をはじめ、老朽施設が更新時期を迎えている
- ・管路施設については管路総延長約1,150kmのうち、法定耐用年数(40年)超過の管路が増加
- ・法定耐用年数で更新した場合、1年あたり平均約7.3億円の更新費用が必要
- ・実使用年限で更新した場合、1年あたり平均4.6億円の更新費用が必要
(実使用年限は厚生労働省「実使用年限に基づく更新基準の設定例」を参考に設定)

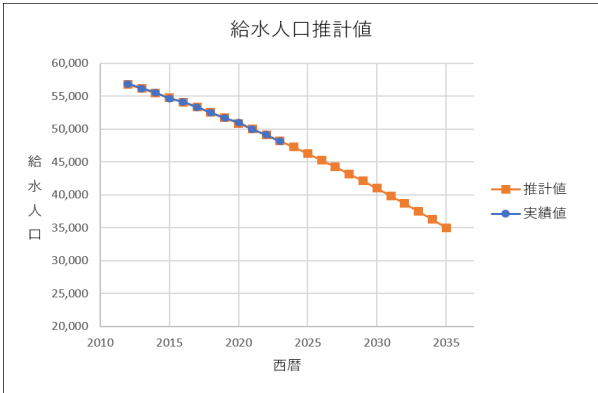
■耐震化の状況

- ・一部配水池等は現行耐震基準を満たしていない状況
- ・基幹管路の耐震化を優先的に取り組んでおり、令和6年度末時点の耐震率は19.1%

■水道事業経営の状況

- ・企業債残高は類似団体平均の1.5倍以上、料金回収率は100%を下回っており、原価割れの状態となっている

▶老朽化の進行に伴い更新需要が増大しており、上水道施設耐震化・更新計画に基づく着実な実施が不可欠な状況



(回帰分析という手法を用いて将来の給水人口を推計)

基幹管路総延長に対する耐震化状況

耐震率(令和6年度末時点)・・・19.1%

耐震適合率(令和6年度末時点)・・・52.9%(耐震管含む)

第3章 水道事業の課題

区分	現状	課題	基本方針
安	取水障害や断水を引き起こす可能性のある水源汚染リスクの存在があります。	水源汚染対策	安全な水道水
	設備の老朽化により、適切な維持管理が難しくなっています。	適切な設備の更新	
全	水道水の安全を保つために、貯水槽水道の設置者への指導が必要です。	小規模貯水槽水道の安全性確保	

区分	現状	課題	基本方針
強靱	老朽管路の更新にあたっては、耐震化をすすめ、ループ化も検討が必要です。	管路の耐震化	災害に強い水道
	現行の耐震基準を満たしていない配水池が存在しており、大規模な地震発生時に躯体や基礎部に損傷を受ける可能性があります。	主要施設の耐震化	
	災害時の危機対応をマニュアル化し、復旧、復興に関わる連携強化に努める必要があります。	災害対応	

区分	現状	課題	基本方針
持続	将来の水需要減少を踏まえた、施設の更新計画が必要です。	適切な施設の更新	水道事業運営
	技術職員が不足していくなか、技術力を維持、向上するため、デジタル技術の活用を進める必要があります。	DXの推進	
	持続可能な水道事業経営を実現するための事業運営について検討する必要があります。	水道経営の健全化	
	水道に対する市民への理解や関心が十分に浸透しているとはいえないため、今後も分かりやすい情報発信を継続し、理解と関心の向上を図る必要があります。	水道情報の発信と水道事業への理解促進	

～浜田市水道事業の基本理念～

『きれいで安全な浜田の水をいつまでも』

人口減少や老朽化などの課題がある中でも市民の皆様に安全でおいしい水を安定供給し続ける想いを込めています

第5章 事業化計画

■年次更新計画

- ・浜田市上水道事業施設耐震化・更新計画に基づき、優先順位をつけて更新する方針
- ・20年間で施設・管路施設の耐震化に約161億円を見込み、1年あたりの平均は約8億円

■財政計画の見直し

- ・資金残高は簡易水道事業統合による支援が令和6年度から段階的に引き下げられることから減少傾向
- ・昨今の物価上昇やエネルギー高騰、漏水修繕費用の増加等の影響で経営状況は厳しさを増している
- ・更新需要の増大と物価上昇等を踏まえ、将来にわたり安定的に水道事業を継続するため、令和9年度での料金改定を実施
- ・これに伴い経営戦略及び水道施設耐震化・更新計画を見直す予定